

木之本町における放牧の概要

1. 小山地区

- 平成 13 年 8 月 山際の 1ha の耕作放棄地で和牛 2 頭による放牧を開始。
 " 11 月 放牧終了、放牧地 1 ha に牧草を播種。
 【牧草】イタリアンライグラス、トールフェスク、ケンタッキーブルグラス、白クローバー
 イノシシ、サルの農地への出没がなくなる。
- 平成 14 年 5 月 放牧面積を 2ha、2 区に拡大し、和牛 4 頭による放牧を行う。
 6 月 新たな放牧地に牧草、隣接した耕作放棄田 1.5ha に大豆を播種し、3.5ha の集団転作に取り組む。
 11 月 放牧終了。
 イノシシ、サル、シカの出没認められず。
 牧草は順調に生育し、大豆も 240kg/10a の収量。
 11 月 隣接田に小麦を播種し、集団転作を継続して実施。
- 平成 15 年 5 月 和牛 2 頭、羊・山羊による放牧
 6 月 ホルスタイン 2 頭放牧
 10 月 放牧家畜引き上げ
- 平成 16 年 5 月 放牧 3 年目に入り、転牧および周年放牧を開始。
 4 種の牧草のうち、トールフェスク、白クローバーが残る
 11 月 2 カ所で和牛に熊除けのためにカウベルを装着。
 イノシシ、サル、シカの出没認められず。
- 平成 17 年 6 月 マクロシードペレット法により、新たに牧草を播種。
 【牧草】バミューダグラス、センチピート、バヒアグラス、リードカナリーグラス
 9 月 放牧牛 2 頭分娩予定



雪の中での放牧の状況



マクロシードペレット

2 . 杉野地区

- 平成 15 年 4 月 4ha の耕作放棄地に廃材パイプを利用した簡易牧柵を集落ぐるみで設置。
- 5 月 和牛 2 頭で放牧を開始。
放牧地を 2 区に分け転牧を実施。
- 11 月 放牧終了
ススキ等の雑草がほとんどなくなる。
イノシシ、サルの出没認められず、被害が全くなくなる。
- 平成 16 年 5 月 入牧（放牧 2 年目）
野生動物の出没がなくなり、山芋の栽培面積が増加。
- 11 月 和牛に熊除けのためにカウベルを装着する。
放牧終了
- 平成 17 年 5 月 新たにマクロシードペレットを使い、4 種類の牧草を播種。
- 6 月 放牧開始。



放牧 2 年目の状況



山芋栽培の復活

3 . 成 果

- 1) 獣害が回避できた。
- 2) 雑草化した耕作放棄地が解消され、景観が良くなった。
- 3) あきらめていた農作物の作付けが復活し、経済的な効果が認められた。
- 4) 住民同士や行政機関等におけるコミュニケーションや子どもの情操教育の場として地域が活性化された。
- 5) 牛は雑草のみでも健康が維持でき、飼料費がほとんど不要であり、繁殖状況も回復した。